

評価対象年度	平成 29 年度
1次評価日（主幹等）	30年3月31日
2次評価日（課長等）	30年3月31日

# 事務事業評価表（補助金等）

1 事業名	児童遊園整備事業補助金		事務事業コード	51102	
2 担当部課	部等	健康福祉部	課等	子ども課	
	担当者	廣瀬 智子			
3 事業概要	目的体系	基本目標	ともに支えあい、健やかに暮らせるまち		
		政策	子育て支援	施策	子育て支援の充実
		事務事業	児童遊園整備事業補助金		
		予算科目	地域子育て事業	業務委託	なし（直営）
		実施義務	その他（内部事務等）	国県補助	なし
	根拠法令等	岡谷市児童遊園整備事業補助金交付要綱			

## ●事業の内容（D0）

4 補助等の内容		* 補助金、負担金、交付金の具体的な内容	
① 性質	補助金	② 期間	年度 ~ 年度
補助金の種別	その他事業補助	③ 対象	公益法人
④ 制度の内容	行政区等が管理している児童遊園の整備に対する補助		
⑤ 積算方法	補助額＝ 総事業費（土地取得費を除く。）のうち他からの補助金又は寄付金等を除いた額×1/2 （補助限度額＝ 新設 50万、増設 50万、改修 20万） * 用地を借り上げて新設する場合は、算定した補助額の10%を加算		
⑥ 期待される効果（最終的な意図）	地域の身近な子どもの遊び場の安全・安心な利用に貢献している。		

## 5 補助等の実績

区分	27年度	28年度	29年度	30年度(予算)
① 件数（件）				
予算件数	2	2	3	5
実際の支出件数	3	2	2	
執行率	150.0%	100.0%	66.7%	
② 金額（円）				
予算額	124,000	50,000	139,000	417,000
財源内訳				
一般財源	124,000	50,000	139,000	417,000
特定財源	0	0	0	0
* 特定財源（負担割合）の説明				
実際の支出金額	123,800	42,218	38,718	
予算執行率	99.8%	84.4%	27.9%	
支出額の前年度比		34.1%	91.7%	

③ 29年度の交付先  
中村区、東堀区

●事業の評価 (CHECK)

6 妥当性評価		* 妥当性=行政がこの事業を行う必要性はあるか。		妥当性 (1次判定)		高い
評価項目		はい	いいえ			
①	現時点で、税金を投入して積極的に関与すべき重要な分野である。	1				5
②	補助等の効果は広く市民に還元され、特定団体の既得権益にはなっていない。	1				5
③	全ての対象者に交付している。	1				
④	補助等の基準を明確に定め、市民に周知している。	1				
⑤	社会情勢の変化や市民ニーズを把握し、補助等の内容に反映している。	1				
⑥～⑩は、補助金の対象が特定の団体に限定される場合に回答		妥当性 (2次判定)				
⑥	補助対象団体では構成員に会費負担を求めており、自主財源を確保している。					0
⑦	補助対象団体の会計において、市の補助額を上回る繰越額は生じていない。					5
⑧	補助対象団体の事務局は独立しており、市は事務的な支援を行っていない。					
⑨	補助対象団体の事業実績、決算状況を把握している。					
⑩	補助対象団体が補助金を目的どおり使用したか、使途を検証している。					

7 有効性評価		* 有効性=成果指標 (項目7/住民の満足度) が向上しているか。		有効性		高い
評価項目		はい	いいえ			
①	この補助金等が属する施策において、この補助金等の優先度が高い。	1				
②	補助等の目的が未達成で、今後も継続することで成果が向上する余地がある。	1				
③	他の方法と比べて、現金を直接給付する方法が最も効果的で低コストである。	1				
④	補助団体等において、市が補助等を行った目的が達成された。	1				
⑤	この事業の利用者が増加した。	補助・交付件数	前年度比	100.0%	1	

●改善の内容 (ACTION)

8 具体的な課題と改善	
課題	(補助等の制度を有効に活用する上で、現在課題になっていること)
	公園内の遊具等の一般的な耐用年数は、概ね10年～15年と言われている。平成22年に一斉点検・整備を行って8年が経過していることから、老朽化等に伴う改修等が集中することが予想される。
改善方法	(上記の課題をふまえて31年度以降に実施する、具体的な改善の内容)
	子どもたちが安全に利用できる環境を維持できるよう、早期点検・早期対応に努めてもらう。
改善開始時期	

●次年度の計画 (PLAN)

9 次年度の方針	継続して実施
----------	--------